

第2回 熊本県小学校英語教育研究会 熊本市大会まとめ

【大会主題】

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～互いの考えや気持ちを外国語で伝え合う授業の創造を通して～



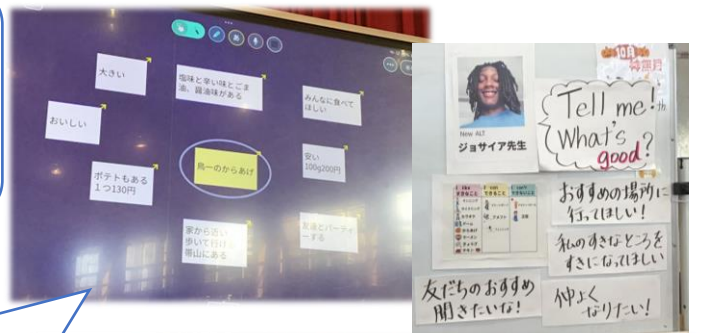
10月11日、第2回熊本県小学校英語教育研究会熊本市大会が行われました。熊本市立帯山小学校の清水佳代先生による5年生、光村図書、Here We Go! 5, Unit8 “This is my town.”, pp.90-97. が公開されました。

「新しく日本に来た ALT の先生にわたしたちの町のおすすめを紹介しよう」というゴールに向けて、自分のおすすめの場所をもっとくわしく紹介するためにどう工夫すればよいのか、考えを出し合ったり、やりとりを楽しんだりと意欲的に取り組んでいました。

Small talk で、先生が町紹介をする中で What flowers do you like? など、質問を交え、先生と児童たちがコミュニケーションを楽しんでいました。

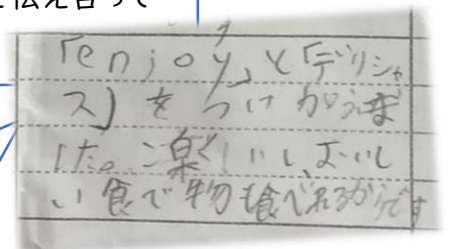
もっと帯山小校区のことを知りたいという ALT からの動画や、前時のふり返し、自分の紹介したい場所のよいところを書いた思考ツールのカードをもとに「おすすめが伝わるように、もっとくわしく伝えよう」という本時のめあてを子どもたちと一緒に設定されました。

そして、例を参考に、どんな言葉をつけ加える
とよいか、班、クラス全体で話し合いました。



前時で作った町紹介に delicious や big などの表現をつけ加え、くわしくなった紹介を伝え合っていました。

全体でふり返しを共有することで、お互いの学びを実感できていました。



【授業研究会】

《自評》

外国語でコミュニケーションを図る必然性のある言語活動を取り入れた学習過程の工夫として、新しく日本に来られる ALT に向けて町紹介をしようというゴール設定をしたが、自分の好きなところを紹介する子どもが多かった。

指導に生かす評価の工夫として、外国語に苦手意識のある子どもの町紹介をモデルとして提示することで、すべての子どもが学びを実感できるように工夫した。

なめらかな接続・連携の工夫として、国語「地域のみりよくを伝えよう」の学習を活用した。また、これまで学習した I like など small talk でたくさん使ってきた。

《質疑応答》

Q: 本時の具体の姿について

A: 前時までに3文作っていたので、delicious などの形容詞や I like を使うなど、自分の考えや気持ちを一つでも付け加えられれば B 評価と考えていた。

Q: ふり返りについて

A: 言葉を付け足すと、くわしくなるという本時のめあてにつながるふり返りを書いている子どもを紹介した。

Q: 中間発表について

A: 今回は担任の意図として、発表の内容ではなく、ふだん発表しない子どもが手を挙げていたので指名した。

《グループ協議》奨励点・改善点・さらなる疑問

(奨励点)

- ・子どもの発話量がとても多かった。町紹介に自分の気持ちを加えるなど、子どもの変容が見られた。
- ・授業の前時のふり返り方法がよかった。誰を紹介するか事前に決めてあり、大事な言葉がカードになっていたこと、名前を紹介していたことが子どもたちの意欲につながった。また ALT に紹介するという相手意識を明確にできていた。

(改善点)

- ・一人の子どもに焦点を当てて、表現のつけ加えについて全体で話し合う時間をもう少しコンパクトにできればよかった。

(さらなる疑問)

Q: プレゼンの英語や日本語などメモについて

A: 画面ではなく、相手を見て発表してほしいので、写真だけにしたい。

《九州ルーテル学院インターナショナルスクール小学部 校長 上妻 薫 氏 まとめ》

① 「子どもが主体的に学ぶ授業」

子どもが主体的に学ぶ授業の実現には、教師にも同様の学びが必要。清水先生の授業で、子どもが主体的に学んだポイントを概念化してして分かることは、伝える必然性や課題の焦点化、安心できる学級集団づくりなどが不可欠である、ということである。また、今日の授業を自分の授業に生かす、転化するにはどうすればよいか、参観者一人一人が考え、取り組んでほしい。

② 授業のまとめ

(1) 「今日のめあては〇〇です」からの脱却。子どもの例を出して、めあてにつなげるところが見事だった。

(2) 対話(アウトプット)では、何を付け加えるか、班で話し合い、決まったら全体で共有という対話のくり返しが多く見られて良かった。

(3) 振り返りでは、delicious など付け加えられた子どもを紹介し、全体で共有されたことにより、児童の理解と意欲が促進された。

(4) なめらかな接続の工夫として、教師の町紹介の途中で、Do you like ~? What ~ do you like? I know. など、教師がたくさん英語を使うことで、子どもが使える英語の材料になる。

外国語活動、外国語における「言語活動」に関して、学習指導要領に書かれている内容をもう一度確かめ、明日からの授業に生かしてほしい。